

研究のあしあと③

令和5年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年10月

2学期になり、計画では、研究授業が続々と行われることになっています。そのスタートを切ったのが、2年生の生活科の授業でした。「生活科」は、2学年しかない貴重な授業のうち的一本であり、本校が府小研の研究協力校として活動する本質的な部分です。が、思いもよらぬ学年閉鎖により、予定していた日から1週間ずらしての研究授業となりました。予想外の事態の中、岡田先生に対応していただき授業を行うことができました。また、今回の研究授業では「チャレンジャー久美っ子」の目標の一員として、教職員も授業を見ながらジャムボードを使って打ち込む形で研修に参加することに挑戦しました。



10月3日(火) 2校時 第2回目
「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」
2年生 授業者 岡田 鈴唯



研究主題とのかかわり

単元の最後に、1年生や保育所の子を招いて一緒に遊ぶ活動を設定し、身近な人に喜んでもらうことで自分達の工夫が認められる嬉しさを味わい、より良いものにするために改良し工夫する良さに気づかせたい。ただおもちゃを作るだけでなく、うまいかないことも経験しながら、自分自身で作上げた喜びを感じさせたい。また、自分で楽しむため、友達と楽しむため、みんなで楽しむため、と遊びにかかわる対象が変わることで、工夫することが変わること気づかせ、より良いものを作る意欲を高めたい。

事前研究会 〈9月20日(水)〉 司会・佐藤 記録・井本

授業者・ブロックより

意見・質問

- ・前時の遊びごとに一人一人に気づきを書かせておく。
- ・試行錯誤して自分たちで目的や相手意識を高められるようにしたい。
- ・気づきを大切に単元構想を行ってきた。
- ・招待する対象を広げることで、2年生の視野・考えも広げる。
- ・本時では、写真や動画を活用して活動の想起をさせて発表につなげたい。
- ・本時までの話し合いの視点が違うことを意識して話し合わせたい。

- ・グループの人数と遊び方の関係は？
⇒指導案後半に示している
⇒遊びが似ている人や意図的なグループ作りになっている。
- ・遊びを比べることで思考が深まるのではないかと。

研究授業(10月3日)・事後研究会〈10月5日(金) 司会・佐藤 記録・淀〉

参観の視点(1) 主体的に課題をもって探求する授業について

- ・遊んだ時の思いを事前にワークシートに書いていたから発表することができてよかった。
- ・発表なのか、つぶやきなのか、独り言なのか、わからないけれど、それだけ言いたいことがあった。
- ・電子黒板 遊んでいる様子を見ながら思い出しながら意見を言えたのは◎ →動画があってもよい

- ・トイレットペーパーのおもちゃの意見のときあたりから、生活科の気付きの質が高まる場所を感じた。物の工夫、ルールへの工夫、人の工夫（苦手な子でもできる）→根拠を言えるとさらに質が深まる



参観の視点（2）自分の身の回りの人とのつながりを深めることについて

- ・前に出ている子、手を挙げている子を指名するだけでなく、「意見をください」などあれば、なおよかった。
- ・画像と体験活動があることで、自分の活動を想起しつつ発言でき、深まった。
- ・対話形式◎
- ・全体で子どもが言ったことを先生がもう一度おさえて共有できていた。



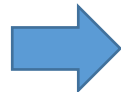
・その他

- ・準備を丁寧にされていた。
- ・「意見を言うことを大事にしたい」との担任の先生の思いが、教室の中で、授業の中で子供の姿として表れていた。
- ・時間が足りない→ 半分ぐらいのグループにして 質も高めていける
- ・書いていても発表していない子・・・ICT活用できるかも？



※ジャムボードでの参観について

- リアルタイムで他の人の考えが見られるのはよい
- チャットみたいになっていた
- その時のメモを、後から見返せるのがよい。
- また、その時におられない人も見ることができる
- △打つ台がほしい → いす？ 探検ボード？



今後の参観でも、タブレットを持参し、ジャムボードへ打ち込むことに決定！

〈授業者の振り返り〉 ※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、その後の学習は？

子どもたちが実際に体験し、感じ、考えたことを使って学習を深めていくことの大切さを改めて考えられた。実践を通して、子どもたちが体験したその場で感じた意見を出すことも大切だが、意見を伝え合うことを重要とするのであれば、子どもたちが意見を交流しやすくするための工夫・準備も必要だと学べた。

その後学習を進めていき、本時で話し合ったことをもとに遊び方の改良を行い、実際に遊んでみた。初めて遊んでみたときよりも楽しそうに遊んでいる姿が見られた。また、「自分たち」が遊ぶための工夫と「1年生」が遊ぶための工夫にも違いが見られ、相手意識を持ちながら工夫を考えていることが分かった。さまざまな意見を出し、交流していくうちに、子どもたち同士で考えが深められるような発問や声掛けができるよう、自分自身も日々の授業を通して学んでいきたいと思った。そして、子どもたちが実際に体験できる活動をたくさん行っていきたいと思った。

～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

生活科は、単元全体の中で見たこと、聞いたこと、感じたこと、体験したことなど、五感をフルに使って構成されていくのだと感じた授業でした。そのための準備も大変丁寧にされており、1時間1時間を大切に組み立てられたからこそ、思いにあふれた（考えたことを言いたいと思う）時間になったのだと思います。意見を交わしている間に「気づきの質が高まっていく」ような授業が構成されるよう、今後も単元全体の構想を大切にしていきたいです。

低学年でのICT活用では、画像や動画が体験を想起させ、主体的に活動するために（意見を引き出すことにも）有効だということも、今回の学びになりました。貴重な授業をありがとうございました。